

函館市医療・介護連携推進協議会 令和6年度第2回会議 会議録

■ 日 時

令和7年3月27日（木） 19:00～19:50

■ 場 所

函館市役所 8階大会議室

■ 議 事

○報告事項

（1）令和6年度下半期における各部会（分科会）での主な協議事項について

○協議事項

（1）令和7年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）について

（2）はこだて医療・介護連携サマリー 応用ツール④の改正について

■ 配布資料

資料1： 令和6年度下半期における各部会（分科会）での主な協議事項

資料2-1： 令和7年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）

資料2-2： 令和7年度 多職種連携研修計画（案）

資料3-1： 応用ツール④の主な変更点

資料3-2： 応用ツール④ 食事摂取・栄養管理（現行・改正案）

■ 出席顧問・委員（14名）

大原顧問，岩井顧問，柳原顧問，高見委員，大谷委員，川口委員，亀谷委員，
阿部委員，渡部委員，四戸委員，吉荒委員，保坂委員，齋藤委員，佐藤委員（座長）

■ 欠席顧問・委員（3名）

氏家顧問，小西委員，寺田委員

■ オブザーバー

（公社）函館市医師会事務局，（一社）函館歯科医師会事務局，
（一社）函館薬剤師会事務局，渡島総合振興局，北斗市，七飯町，
はくと・ななえ医療・介護連携支援センター

■ 傍 聴 者 なし

■ 報道機関 なし

■ 事務局等

<函館市>

保健福祉部 原次長

地域包括ケア推進課 横山課長，渡辺主査，川村主事

市立函館保健所 山田所長，小林次長

<函館市医療・介護連携支援センター>

佐藤係長，近藤氏，花輪氏

＜函館市医師会病院＞
加藤医療・介護連携課長

■ 会議要旨

- 1 開 会
- 2 顧問・委員紹介
- 3 議 事

報告事項（１）令和６年度下半期における各部会（分科会）での主な協議事項について

佐藤座長

令和６年度下半期における各部会（分科会）での主な協議事項について、函館市医療・介護連携支援センターから説明願いたい。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

※ 資料１に基づいて説明

佐藤座長

各部会で様々な議論を進められているが、センターの説明に関して、情報共有ツール作業部会のメンバーである、亀谷委員、保坂委員、吉荒委員から、何か補足等はないか。

保坂委員

サマリーの運用開始から７年が経過していることから、さらに使いやすくしていきたいという思いが部会メンバーやコアメンバーの中にある。今後も各団体あてに、サマリーの見直しに係る案内が届くと思うが、情報を共有する際、目の前の患者・利用者をよりクローズアップしてイメージ化できるよう、変えていきたいと思っているので、御理解いただきたい。

吉荒委員

部会の議論の中では、「サマリーが浸透してきている」という意見もあり、自分の職場でもサマリーを目にする機会が増えている。現場での使いやすさという点も考慮しながら、今後も議論していきたい。

亀谷委員

もともとは、介護側から「医療と介護をつなぐ情報共有ツールが必要だ」というニーズがあり、このサマリーを作成したが、最近では、市内の急性期病院をはじめとする医療側が進んで活用している。もっと介護側にもサマリーを使ってほしい。

佐藤座長

今後の進め方等についても御意見をいただき、感謝申し上げる。他に、質問・意見等はないか。（なし）

それでは、報告事項（１）の議事は、以上とする。

協議事項（１）令和７年度 函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）について

佐藤座長

続いて、協議事項（１）令和７年度函館市医療・介護連携支援センター事業内容（案）について、事務局から説明願いたい。

横山課長（地域包括ケア推進課）

※ 資料２－１および２－２に基づいて説明

佐藤座長

事務局の説明に関して、質問・意見等はないか。

川口委員

昨年の本協議会の中で、医師会から函館市に対して、主治医・副主治医制の対応等を含めた在宅医療グループの構築に係る要望があった旨や、令和５年１２月に北海道庁地域医療課から在宅医療に必要な連携を担う拠点として函館市を指定したいという打診があった旨の説明があり、函館市としては、令和６年４月１日以降に北海道から正式な事業実施要綱や補助要綱が示された後、その内容をふまえて関係者と協議させていただきたいとのお話だったが、その後の進捗状況はどのようなになっているか。

佐藤座長

北海道医療計画に基づく在宅医療に必要な連携を担う拠点の進捗状況に関するお尋ねだが、この件について事務局から説明願いたい。

横山課長（地域包括ケア推進課）

北海道医療計画に基づく「在宅医療に必要な連携を担う拠点」については、現在医師会に委託している、介護保険法に基づく在宅医療・介護連携推進事業との関係性などを確認する必要がある、これまで北海道から具体的な情報が示されない状況が続いていた。令和７年３月１０日付けで「北海道在宅医療連携拠点指定要綱」が制定され、拠点の指定に係る手続きに関する部分が判明しており、指定要綱は、保健所を通じて医師会にも共有させていただいた。

道の担当者に確認したところ、今後、各自治体に説明に回る予定とのことだったが、事業実施要綱や補助要綱などはまだ制定していないとのこと、市としても具体的な議論を先に進めることができずにおり、今後、道の事業実施要綱や補助要綱が示され次第、内容を確認するとともに、医師会や在宅医療医会などの皆様とも情報を共有してまいりたいと考えている。

この「在宅医療に必要な連携を担う拠点」は、高齢者だけではなく、障がい者も含めて、在宅医療を受けている全ての方に関わる事業を行うほか、災害時の体制構築への支援も求められるなど、今の在宅医療・介護連携推進事業よりも幅広い分野の関係者との連携が必要になることから、北海道の動きを注視しながら、函館市にとって、どのような形で拠点の取り組みを進めることが適切なのかを考えていきたい。

川口委員

函館市としては、北海道から要綱等が示されてから、その内容をふまえて協議したいと考えていることは理解しているが、北海道から要綱がなかなか出されず、そのせ

いで事業の開始が1，2年遅れているような気がしている。ぜひ，事前に様々なことを予想しながら，協議できればと考えていた。

佐藤座長

在宅医療に必要な連携を担う拠点については，道からなかなか情報が来ないということで，担当課からも何度となく問い合わせているのだが，道として優先的に進める地域，都市，というイメージも別にあるようで，市としての進め方のイメージや，今時点でのタイミングが合わないこともあり，なかなか話が進んでいないのだと思う。今後，要綱が示されれば，全ての地域における進め方も見えてくると思うので，担当課長からも話があったとおり，情報共有しながら進めていきたいと考えている。

その他，御意見等はあるか。センターの事業計画のうち，資料2-2として研修計画が示されているが，多職種連携研修作業部会のメンバーである阿部委員，川口委員，齋藤委員から，先ほどの説明について補足等はないか。

阿部委員

次年度は，10回目の大規模研修会の開催を予定しているので，適宜準備等を進めていきたい。

佐藤座長

他に，質問・意見等はないか。（なし）

それでは，函館市医療・介護連携支援センターにおける次年度の事業内容（案）および研修計画（案）については承認とし，協議事項（1）の議事は以上とする。

協議事項（2）はこだて医療・介護連携サマリー 応用ツール④の改正について

佐藤座長

続いて，協議事項（2）はこだて医療・介護連携サマリー 応用ツール④の改正について，情報共有ツール作業部会 部会長の亀谷委員から説明願いたい。

亀谷委員

※ 資料3-1，資料3-2に基づいて説明。

佐藤座長

亀谷委員の説明に関して，質問・意見等はないか。（なし）

それでは，サマリーの改正については，原案のとおり承認し，協議事項（2）の議事は，以上とする。

4 その他

佐藤座長

以上で全ての議事が終了したが，函館市医療・介護連携支援センターの開設日の変更について，事務局から説明願いたい。

横山課長（地域包括ケア推進課）

本日机上にお配りしている、「函館市医療・介護連携支援センター、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター営業日変更のお知らせ」を御覧いただきたい。

函館市医療・介護連携支援センターは、現在、平日月曜日から金曜日と土曜日が開設日で、日曜・祝日・年末年始が休日となっているが、令和7年度からは、土曜日も休日となることをお知らせする。

なお、平日の開設時間については、これまでどおり変更はない。

佐藤座長

開設日の変更について了承いただければと思うが、確認事項等はないか。（なし）
このほか、質問・意見等はないか。

齋藤委員

先ほど亀谷委員から、はこだて医療・介護連携サマリーを介護側があまり導入していないという意見があったことから、道南地区老人福祉施設協議会でも、再周知を図りたいと考えている。サマリーを導入した際のメリットや、函館市では現在50%ほど導入されているようだが、そういった具体的な数字等をいただけると、伝えやすい。再周知するにあたって、何か材料をいただければと思う。

亀谷委員

サマリーの活用状況調査結果をセンターのホームページに掲載しているので、そこらを見ていただければと思う。一概に介護側が全て使っていないという話ではないため、そこはなるべく切り取らないでいただきたい。もともと、医療と介護の情報共有ツールとして、この事業が始まってすぐに生まれたものがサマリーである。当初は医療側の導入が遅れていたような肌感覚であったが、最近そこが逆転してきており、医療側からすると、介護側でサマリーを使っている職種が偏ってきている気がしている。

もちろん、皆さんは様々なアセスメントツールを使っているかと思うが、そういったツールと、連携のためのツールであるサマリーは違うということを、まずは頭に入れてほしい。連携するためのツールを、この道南圏、函館市の中で動かしていただければと思うので、ぜひ周知をお願いしたい。

佐藤座長

アンケートの結果は、前回の協議会においても共有させていただいているため、活用いただければと思う。

保坂委員

亀谷委員の説明に補足だが、なぜサマリーを使うのか、誰のために、何のために使うのかということを考えてほしい。私達の仕事は誰のためのものなのかということ、忙しく働いていると忘れがちになり、つい既存の様式を使ってしまうのかもしれないが、それだと情報はつながらないと思う。

また、サマリーを使うことのメリットをこれからさらに発掘していかなければいけないと考えている。サマリーを使うことの効果を数字で示して発信できれば、介護側も使ってくれるようになるのではないかと考えている。今後も、皆さんに協力をお願いしたい。

佐藤座長

今後、サマリーの利用目的や活用するメリットも共有していきたいとお話であった。このほか、質問・意見等はないか。

大原顧問

今日は、部会等における年々充実した取り組み内容がよくわかり、関係者の皆様に感謝申し上げる。その一方で、様々な取り組みしている中でも、ツールがこの地域の中で100%普及しているというわけではないとのことで、現在も途中の過程にあるのだと思う。

3月7日に医師会で、一次救急と二次救急の関係者が集まり、問題点や現状を共有する会が開催され、現場で救急を担当している中堅の先生から「年に1回くらい、二次救急が逼迫することがある。直近だと年末年始にインフルエンザや発熱が非常に流行って、一次のクリニックも大変だったと思うし、救急車もかなり出動した。また、一昨年の猛暑の際も、様々な発熱疾患が重なって、救急車が当番病院に何台も並び、患者が待たされることがあった。このような状況になると、受け入れ側の病院の医師も看護師も混乱するし、加えて、望まれない救急車の出動依頼があると、途中までは命を救うために処置をするが、患者の中には意思疎通のできない高齢者も多く、処置が始まってからよくよく話を聞くと、終末期に近く、延命を希望していないなどの場合もあり、本当に急いでいる患者が待たされているという状況になっている。特に、高齢者や介護施設に入所している方などのACPについては、『もしもノートはこだて』といったものもあるが、そういった取り組みをさらに加速させて、普及してほしい」という意見があった。

関係者の皆さんも、どのように普及させようかと考え、毎年努力されていると思うが、介護側にもこのような現状をより認識していただき、第一に患者本人や家族が望まない処置を受けないよう、また、現場でも必要のない処置を減らして、本来優先されるべき患者が手遅れにならないように、さらにこのような取り組みを進めていくための協力をお願いしたい。

佐藤座長

基本的には、センターや部会等が作成している様々なツールの活用を進めていくことで、医療側としても、急変時における円滑な医療の提供が可能になるとのことで、現在の取り組みについて、前向きに受け止めていただいた御意見かと思う。

今のお話について、質問や意見等はあるか。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）

御意見をいただき感謝申し上げます。当センター職員や情報共有ツール作業部会のメンバーも、大原顧問と同じ思いである。本協議会に参加されている団体の皆様にも、ぜひ、所属会員等関係者への周知をお願いしたい。

令和5年度に「もしもノートはこだて」の取り組みを始めてから、各研修会等で周知を進めてきたところである。実際に使った人の反応については、次年度行うアンケート調査で見えてくると思うので、その結果をふまえて、周知していく上での課題や、どのような取り組みが適しているのかということを検証しながら、活用促進を図っていきたい。

また、急変時関係の取り組みについての補足だが、連携ルール作業部会の中に、急変時対応分科会というものがあり、継続して急変時対応研修会を行っている。今年度の急変時対応研修会の中では、在宅や施設において、救急搬送になる手前でできるこ

と、重症化の予防や急変の早期発見といった部分について、講師の方からお話いただき、多数の介護関係者の参加があった。すぐに成果が出るものではないが、このような取り組みを通して、少しずつ地域の中での急変時について考えていきたいと思っている。今後とも、御理解・御協力をお願いしたい。

佐藤座長

センターから、今後の取り組みの考え方についてお示しいただいた。皆様からの貴重な御意見に感謝申し上げます。

このほか、質問・意見等はないか。（なし）

5 閉 会